

近江八景：比良暮雪（ひらのぼせつ）

大津の北西部にある比良山地には三大峰がある：武奈ヶ岳、蓬萊山、打見山である。比良山系から、3月に琵琶湖に吹き下ろす強風は「比良おろし」として知られ、この時期の難破船の原因ともなることで良く知られています。

比良暮雪は、近江八景の中で唯一冬に描かれている情景です。美しい風景であると共に、山々の厳しさを思い起こさせます。歌川広重（1797-1858）の木版画の保永堂版には、峻厳な白い峰が、雪をかぶった家々や外に出かける少数の人々の姿を矮小化しています。琵琶湖の明るい青だけが鮮やかな色です。

比良山系は広重の時代よりもアクセスしやすく、ハイキングや登山、スキーなどが楽しめる人気のスポットです。大津市の中心部から比良方面には電車で行くことが出来、琵琶湖溪谷には蓬萊山の頂上付近までロープウェイで行くことができます。比良山系からは琵琶湖を一望でき、一年中いつでも訪れる価値がありますが、特に鮮やかな紅葉が楽しめる秋はおすすめです。